

## 「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

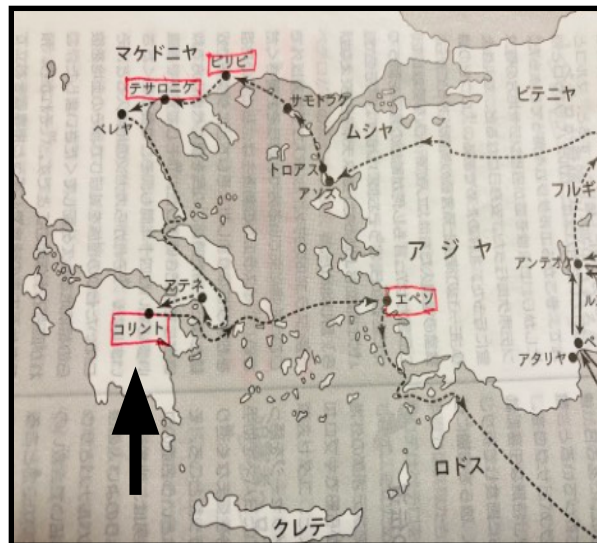
## 1 コリント教会への手紙のアウトライン

## A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

## B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



## 「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

## 1 今日の聖書箇所：10章1節～13節

## 2 今日のポイント：教訓にすべきこと

## (1)前回までの復習

パウロは9章の後半で、「伝道」について熱心に語りました。キリストを信じる者達を迫害していたパウロ。このまま人生を進んでいくと地獄行きでした。しかし、イエス様がパウロに出会って下さり、人生が変えられる経験をします。その恵みに心から感謝して、パウロは伝道を始めました。誰かに強いられてでもなく、誰かに自慢するためでもなく、報酬を願ってでもなく、ただただ主の為に伝道を行いました。その情熱はユダヤ人の為にはユダヤ人の姿で、異邦人の為には異邦人の姿で伝道するほどの熱心さとして現れていました。

## (2)恵みを思い出す(1～4節)

10章では、旧約聖書に記録されているイスラエルの民の姿と、コリント教会の人々の姿を重ね合わせてつつ、コリントの人々に警告を発するメッセージを送りました。その過程でまず、パウロはイスラエルの民が受けた恵みを思い起こさせます。1節や2節では「雲の下にあり、海を通過して(1節)」や「雲と海で(2節)」と表現し、2節後半の「聖霊様と水のバプテスマ」を連想させる言葉になっています。イスラエルの民が奴隷の状態から創造主の導き(雲の柱・火の柱)で助け出され、海を越えて約束の地に入ったように、コリントの人々も罪の奴隷から創造主によって導き出され、聖霊様を通してイエス様を受け入れ、洗礼へと導かれました。また、3節では荒野で与えられたパンについて語られ、出エジプトの時代には、パン(マナ)をイスラエル民族が共に食べたように、ここでは、教会という共同体が共にあずかる恵みである聖餐式を連想させました。

このようにしてパウロは、信仰の父祖達が受けた創造主からの恵みを語りながら、コリント教会の人々にも同じ恵みが与えられている事を思い起こさせ、その後に起こったイスラエルの失敗に倣わない

ように警告を発しようとしてしました。

### (3) 荒野で滅ぼされた民たちとならないように(5～10節)

続けてパウロは、恵みを受けたイスラエルの民が、その後荒野であらゆる形で創造主を裏切り、離れていき、最後は滅ぼされてしまったことについて言及しました。7節では偶像礼拝になってしまった姿、8節では不品行をおこなってしまった姿(民数記25章のシティムという街でモアブの娘達と不品行をおこなった事件だと思われる)、9節ではイスラエルの民が創造主を試みる姿(民数記21章4～9節の蛇に噛まれた出来事だと思われる)について語りました。コリント教会も、イエス様を信じたと言えども、創造主を悲しませる姿(売春・コリントの偶像への礼拝など)がありました。パウロは、皆がよく知っている旧約聖書の話引用しつつ、同じ過ちを犯さないように警告を発しました。

### (4) 気を付けなさい(11節～13節)

パウロは前述のように、イスラエルの民の具体的な失敗から学ぶようにと、警告を発しました。パウロはあの信仰の父祖であるイスラエルの民でさえ、恵みを忘れ倒れたのだから、コリント教会の人々はますます高ぶってはいけないと語りました。「私は大丈夫。私は偶像礼拝に陥らない。私は霊的に大丈夫。たくさんの知識があるから」といった心は、逆に失敗に陥りやすい高慢な心です。パウロは12節で「自分は大丈夫だなどと思っている人は、よくよく気を付けなければならない」と語りました。13節では偶像礼拝や不品行などを避けようとして起こってくる試練は、皆に襲ってくるものである事語りながらも、創造主は、耐えられない厳しい試練に遭わせられないばかりか、逃れの道も備えてくださる事を語り、偶像と不品行に溢れた街コリントに住む、コリント教会の人々が、旧約聖書のイスラエル人のような失敗に陥らないように励ましました。

## 3 分かち合ってみましょう

ある人は、罪を犯すような環境にあるから罪を犯してしまう、罪を犯す環境さえなければ罪なんか犯さないと、罪を環境のせいにしてしまう人がいます。しかし、イスラエルの民は荒野で恵みをたくさん受けたにも関わらず、罪を選んでしまいました。人間は罪を止む負えず犯しているのではなく、罪を楽しみ、それに同意して生きていると言った方が良いかもしれません。

それゆえ、私たちはいつも、恵みを忘れないようにすることと、自分が信仰に強く固いと思うような高慢な心を持たない事、罪の選択を行わないようにいつも聖書を読み、聖書の指針に従うように自分を訓練することが大切です。私たちは、過去に受けた恵みを忘れずに生活しているでしょうか。私たちは罪に陥らないように自分を吟味しているでしょうか。